

# 【テーマ1】 多彩な都市の魅力があふれ、楽しく過ごせる大阪

めざす方向	<p>◎「大阪都市魅力創造戦略 2020」に基づき、「世界中から人、モノ、投資等を呼び込む『強い大阪』」、「世界に存在感を示す『大阪』」の実現をめざします。</p> <p>(中長期の目標・指標)</p> <p>※大阪都市魅力創造戦略 2020 に掲げた主指標 (令和 2 年度までにめざす目標)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・来阪外国人旅行者数 1,300 万人</li> <li>・来阪外国人旅行消費額 1 兆 1,900 億円</li> <li>・国際会議開催件数 340 件</li> <li>・延べ宿泊者数 3,600 万人</li> <li>・府内外から人々が集まり、芸術活動が活発になっていると思う府民の割合 40%</li> <li>・文化的環境が整備されていると思う府民の割合 40%</li> <li>・大阪にゆかりのあるプロスポーツ7チームの年間主催試合での観客者合計数 360 万人</li> <li>・成人の週 1 回以上のスポーツ実施率 50%</li> <li>・大阪で学ぶ留学生数 23,000 人、大阪で働く外国人労働者数 61,000 人</li> </ul>
-------	--

## 大阪全体の都市魅力の発展・進化・発信

＜今年度何をするか（取組の内容、手法・スケジュール等）＞	▷	＜何をどのような状態にするか（目標）＞	▶	＜進捗状況（R 2.3月末時点）＞
<p>■ <b>世界第一級の文化・観光拠点形成・発信</b></p> <p>◆ <b>水と光のまちづくりの推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公民共通のプラットフォーム「水都大阪コンソーシアム(*1)」による水辺・水上の魅力創出・にぎわいづくりの推進</li> <li>○水辺のにぎわいづくりなど水都の魅力を結集し、その魅力を発信するイベントを実施</li> <li>○舟運のさらなる活性化を図り、より多くの方々が船に乗り水都大阪を楽しむ機会を増やす取組みを実施</li> </ul> <p>(スケジュール)</p> <p>通年 舟運事業者・関係者とのネットワーク形成・強化 元年 9~10 月 「水都大阪フェス」の実施</p>	▷	<p>◇ <b>活動指標（アウトプット）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「水都大阪フェス」を実施</li> <li>・舟運創造・活性化推進事業を実施（水辺・水上関連イベントとの連携等）</li> </ul>	▶	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「水都大阪フェス 2019(9月20日～10月13日)」を開催</li> <li>・アジアで初開催となる SUP の世界大会「APP ワールドツアー大阪大会 SUP オープン(9月20日～22日)」をキックオフイベントとし、「水都大阪」を世界に発信（来場者数約 8,000 人）</li> <li>・メインイベント（10月13日実施。なお12日は台風のため中止）では、無料で乗船できる船や徒歩などで5つの船着場を巡る「水都 CRUISE」や、中之島公園芝生広場において、ヨガ・ウォーターアートなどの体験型プログラムや、ステージイベントを実施（来場者数約 20,000 人、うち「水都 CRUISE」乗船者数約 2,900 人）</li> </ul>

・観光拠点である大阪城公園内における公共船着場の整備に向けて設計し、工事に着手

(スケジュール)

31年4月～ 詳細設計入札手続き

元年6月～ 詳細設計

元年10月～ 整備工事入札手続き

元年11月～ 整備工事

※整備工事は2年度までの債務負担行為を設定

・クルーズ船の増加等に対応するため、係留施設の整備に向けた基本計画を策定

(スケジュール)

31年4月～ 関係機関調整

元年7月～ 基本計画入札手続き

元年8月～ 基本計画

・喫水調整機能を付加したクルーズ船の新建造等を行う事業者に対し、その整備に必要な経費を支援

(スケジュール)

元年5月～ 事業計画公募

元年7月～ 事業者補助申請準備(設計・見積等)

元年8月～ 補助金交付申請受付

元年9月 交付決定

元年10月～ 事業開始(クルーズ船の建造等)

※当該クルーズ船の完成は2年度予定

・大阪城港に公共船着場を整備するため、詳細設計及び整備工事を実施

・水の回廊内に係留施設を整備するため、基本計画を策定

・中之島の東西を結ぶ舟運を活性化するため、喫水調整機能を付加したクルーズ船の新船建造等に対する補助を実施

◇成果指標(アウトカム)

(定性的な目標)

・水都大阪のさらなる「成長」の促進

(数値目標)

・舟運利用者数：125万人

(平成30年度：123万人(見込み))

○詳細設計(6月～10月)  
工事契約を締結(3月)

○水の回廊内に係留施設を整備するため、基本計画を策定(7月～3月)

○2者を補助事業者として内定したが、新型コロナウイルス感染拡大の影響等の理由により2者ともに辞退(10月～3月)

○舟運利用者：集計中

◆万博記念公園の魅力創出

- ・大阪万博 50 周年を記念した事業を進める
- ・万博記念公園駅前周辺地区の活性化に向け、事業者誘致の具体化を図る。また旧大阪府立国際児童文学館の事業者誘致について、引き続き手続きを進める
- ・入場者数増加に向けた取組みの推進  
指定管理者や園内事業者と連携を図りながら、公園の新たな魅力づくり、利用者の利便性向上や広報・イベントの積極的な展開等を進める

(スケジュール)

元年 11 月～2 年 2 月 (内 10 日間程度)  
大阪万博 50 周年記念特別展覧会の開催  
2 年 3 月 15 日  
大阪万博 50 周年オープニングイベントの開催

◆百舌鳥・古市古墳群(\*2)の魅力創出

- ・5 月のイコモス(\*3)による勧告を踏まえた取り組みにより、本年 7 月の世界文化遺産登録を実現
- ・イコモス勧告後に急増する来訪者への対応と情報発信の実施

(スケジュール)

元年 5 月頃 イコモスからユネスコへの評価結果の勧告  
元年 7 月 世界文化遺産登録の可否が決定  
元年 8 月以降 国内外へ向けた PR の実施

◇活動指標 (アウトプット)

- ・大阪万博 50 周年を記念した特別展覧会や、オープニングイベントの実施
- ・万博記念公園駅前周辺地区及び旧大阪府立国際児童文学館の事業者誘致
- ・万博記念公園の施設改修、コンテンツやイベントの拡充等

◇成果指標 (アウトカム)

- (定性的な目標)
- ・日本万国博覧会記念公園の活性化に向けた将来ビジョン (平成 27 年 11 月策定) に基づき、公園の新たな魅力を創造し、国内外から多くの利用者を引きつける
- (数値目標)
- ・自然文化園の入場者数：270 万人以上 (平成 30 年度：239 万人)

◇活動指標 (アウトプット)

- ・百舌鳥・古市古墳群の世界文化遺産登録の実現
- ・百舌鳥・古市古墳群の世界文化遺産としての周遊環境整備と国内外に向けた情報発信

◇成果指標 (アウトカム)

- (定性的な目標)
- ・世界文化遺産としての海外における認知度向上
  - ・百舌鳥・古市古墳群の魅力の発信及び周遊性の向上

○東京・天王洲エリアで大阪万博 50 周年記念展覧会を開催した (2/15～2/24)。なお、オープニングイベントについては、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、当初の予定 (3/15) から延期した。

○万博記念公園駅前周辺地区の活性化については、「大規模アリーナを中核とした大阪・関西を代表する新たなスポーツ・文化の拠点づくり」をめざすことを決定し、10 月から事業者を公募中。

○万博記念公園の施設改修については、フェスティバルスタンドの改修工事等を実施。また、指定管理者において、藤棚の新設、バラ園や売店等のリニューアル、新たな納涼イベントの開催等を実施した。

・自然文化園の入場者数：約 237 万人 (速報値)

○第 43 回世界遺産委員会において、世界遺産登録が決定 (7 月)

○「『百舌鳥・古市古墳群』世界遺産委員会パブリックビューイング」を、あべのハルカス展望台にて実施

○「百舌鳥・古市古墳群 世界遺産登録記念シンポジウム」を実施 (9 月 参加者数約 400 名)

○海外メディア向けプレスツアーを実施 (2 月 参加記者 8 社 10 名)

○百舌鳥・古市古墳群がデザインされた年賀はがきの販売など、民間企業や団体等との連携事業を実施 (38

◆大阪周遊促進事業

- ・大阪の多様な魅力を発信するとともに、周遊できる仕掛けづくりを行うことにより、インバウンドを含めた来阪旅行者の府内における周遊性を向上
- ・今年度は、「百舌鳥・古市古墳群周遊事業」として、世界文化遺産登録をめざす百舌鳥・古市古墳群の周遊性向上に取り組む

(スケジュール)

- ・古墳群をめぐる周遊ルートの策定  
31年3月 プロポーザルによる事業者公募  
31年4月 委託事業者決定・事業開始  
元年7月～ 周遊ルートの策定・情報発信  
(ガイドブックの発行等)
- ・来訪者の移動手段の整備(周遊バス運行)  
元年5月中 受託事業者決定(予定)  
元年7月以降 バス運行開始(予定)  
※世界文化遺産登録が決定された場合のスケジュール

◆大阪観光局の活動支援による戦略的な観光集客

- ・大阪観光局が実施する国内外での戦略的なプロモーション、Wi-Fi環境の整備推進、観光情報の発信等、集客促進に向けた活動を支援
- また、国の地方創生推進交付金を活用して、観光データ収集、マーケティング強化を行うとともに、市町村との連携を深め、府域周遊促進を図る等、「大阪版DMO(※4)」としての機能強化を推進し、戦略的に観光集客を促進

◇活動指標(アウトプット)

- ・古墳群をめぐる周遊ルートの策定と情報の発信  
モデルコース：府内3コース以上
- ・百舌鳥・古市古墳群への誘導に向けた広域交通の整備
- ・来訪者の移動手段の整備による府域への誘客

◇成果指標(アウトカム)

- (定性的な目標)
- ・百舌鳥・古市古墳群の魅力を発信及び周遊性の向上(再掲)

◇活動指標(アウトプット)

- ・国内外プロモーションの実施、観光案内機能の充実、戦略的マーケティング調査の実施
- ・府域周遊促進を図るためのテーマ・エリアの設定と、その効果を測定できる手法の検討

◇成果指標(アウトカム)

- 件)
- 市町村の住民や府内の中高生を対象とした世界遺産学習会を実施(20件)
- 百舌鳥・古市古墳群をめぐる周遊ルート(府内8コース)を策定(9月)  
周遊ルートを掲載した多言語ガイドブックを作成(10月)  
・ポスター、チラシ、ホームページ等を活用したプロモーションを実施(9月～3月)
- 百舌鳥・古市両エリアを結ぶ定期バスを運行(8月～3月)
- 観光局において、マーケティングリサーチに基づく国内外でのプロモーションの実施や、HP・SNS・ガイドブック等による観光情報の提供を実施(通年)
- 府域周遊の促進については、エリアごとにテーマを設定した取り組みを実施  
東大阪…ものづくり体験プログラムの商品化への支援  
南河内・泉州…食をテーマにしたファミトリップの実施

<p>(スケジュール)</p> <p>通年 G20 大阪サミット、ラグビーワールドカップ 2019、          ツーリズム EXPO ジャパン 2019 などの開催を意識          したプロモーション活動の実施、府域内連携による          周遊促進、マーケティング活動の推進等</p> <p>◆MICE(*5)誘致の推進</p> <p>・「大阪における MICE 推進方針 (29 年 3 月)」に基づ          き、大阪経済活性化などにつなげていくため、大阪市・経済          団体・大阪観光局とともに、戦略的に MICE 誘致を推進</p> <p>(スケジュール)</p> <p>通年 他の関係機関との連携のもと、IR の動向を注          視          しつつ MICE 誘致活動を推進          時期未定 MICE 推進委員会の開催 (年間 2 回程度)</p>	<p>(定性的な目標)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国内外からの観光集客及び周遊ルートの設定による効果              検証を行いつつ、府域周遊の一層の促進を図る</li> </ul> <p>(数値目標)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・来阪外国人旅行者数：1,225 万人              (平成 30 年実績：1,142 万人)</li> <li>・延べ来阪宿泊者数：3,970 万人              (平成 30 年実績：3,576 万人)</li> </ul> <p>◇活動指標 (アウトプット)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・MICE 推進委員会の開催とともに、MICE 誘致推進に向              けた関係機関によるネットワーク強化</li> </ul> <p>◇成果指標 (アウトカム)</p> <p>(定性的な目標)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・MICE を通じて、多彩な人が訪れ、集い、交流する活気あ              ふれる都市をめざす</li> </ul> <p>(数値目標)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国際会議開催件数：291 件 (JNTO 基準)              (平成 30 年実績は、秋頃公表予定)</li> </ul>	<p>取組みの効果検証に向け、消費額をはじめとする各種          データ収集する仕組みを構築した。          また、ツーリズム EXPO ジャパン 2019 において府内市          町村の PR を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・来阪外国人旅行者数 (1-12 月)              1,231 万人 (対前年同期比 107.8%)</li> <li>・延べ宿泊者数 (1-12 月)              4,451 万人 (対前年同期比 111.6%)</li> </ul> <p>○大阪観光局をはじめ関係機関と連携し、MICE 誘致の          ための取組みを行っており、7 月と 10 月に MICE 推進          委員会を開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ツーリズム EXPO ジャパン 2019 現地開催協議会の              開催 (6 月、10 月)</li> <li>・H28 年度にオール大阪で誘致したツーリズム EXPO ジャ              パン 2019 を開催 (10 月)              来場者数 151,099 人              (主催者目標 13 万人)              出展 100 か国・地域、1,475 企業・団体</li> </ul>
<p>■多様な観光資源の発掘・発信</p> <p>◆国内外の人々を惹きつけるキラーコンテンツの創出</p> <p>・大阪のメインストリートである御堂筋を集客装置として活用          して、非日常的なオンリーワンコンテンツを通じて大阪の魅力          を国内外に発信し、多くの方に大阪を訪問していただくため          の起爆剤となるイベントを実施</p>	<p>◇活動指標 (アウトプット)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・御堂筋オータムパーティー2019 の実施</li> </ul>	<p>○「御堂筋オータムパーティー2019 御堂筋ランウェイ」を          開催 (11 月 4 日)</p> <p>○トップアーティストによるオープニングライブや国内外を問</p>

## (スケジュール)

元年 11 月 御堂筋オータムパーティー2019 の実施

## ◆ナイトカルチャーの発掘・創出

・「御堂筋イルミネーション 2019」と「OSAKA 光のルネサンス 2019」をコアプログラムとして、民間等の実施する光のプログラムと連携して、「大阪・光の饗宴 2019 (\* 6)」を実施。

大阪の観光振興の促進に寄与するような展開を図る

・夜間公演等に積極的に取り組む事業者に対して、事業の立ち上げやコンテンツの更なる向上等を図るために必要な経費を支援するとともに、夜間公演等の実施場所の確保について検討する

## (スケジュール)

元年 5 月中 補助対象事業の決定

元年 11 月 4 日～ 2 年 1 月 31 日

「大阪・光の饗宴 2019」の実施

(御堂筋イルミネーション：元年 11 月 4 日  
～元年 12 月 31 日)

## ◇成果指標 (アウトカム)

(定性的な目標)

・御堂筋を国内外に発信できる集客装置として活用して、国内外からの話題を集め、御堂筋・大阪の魅力を発信

(数値目標)

30 年度と同一目標を設定。メディア等に大きく取り上げられた昨年並みの露出をめざす

・テレビ・新聞・雑誌の掲載回数 90 回以上  
うち首都圏メディアでの掲載取上げ回数 30 回以上  
・Web 掲載回数 600 回以上

## ◇活動指標 (アウトプット)

・御堂筋のイチョウ並木をインパクトあるイルミネーションで装飾する「御堂筋イルミネーション」をコアプログラムとする「大阪・光の饗宴 2019」の実施  
・夜間公演等の事業の立ち上げや継続に向けた取り組みに対し、補助を実施  
・補助上限額を 1,500 万円とする事業への補助を実施  
・民間事業者による新たな劇場誘致に向け必要な調査を実施

## ◇成果指標 (アウトカム)

(定性的な目標)

・よりインパクトある光空間を演出し、国内外からの更なる誘客につなげる  
・夜間公演等の充実支援等を通じて、国内外からの旅行者の要望の多いナイトカルチャーのさらなる充実を図る

わず多くのファンがいるディズニーやピカチュウとのコラボなど、子どもから大人まで幅広い世代に向け、発信力のある企画を実施

○マスコミ露出状況 (連携イベント含む)

・テレビ・新聞・雑誌の掲載回数 76 回  
うち首都圏メディアでの掲載取上げ回数 7 回  
・Web 掲載回数 411 回  
計：487 回

<大阪・光の饗宴>

○「大阪・光の饗宴 2019」を 11 月 4 日から 1 月 31 日まで 89 日間開催

○「御堂筋イルミネーション 2019」については、11 月 4 日から 12 月 31 日まで 58 日間開催

・本町から心齋橋の区間で、イルミネーションの調光により色彩が変化するシンフォニーゾーンを演出  
・御堂筋沿線の公開空地などに大型モニュメントを設置  
・「大阪・光の饗宴開宴式」では、音楽に連動した光を演出  
・御堂筋イルミネーションの来場者数 約 578 万人

○「大阪・光の饗宴 2019」に、昨年より 2 団体多い、21 団体 (民間等による光のプログラム団体) が参加しコアプログラムと連携

・大阪・光の饗宴全体の来場者数 約 2,022 万人  
(前年比 約 313 万人増)  
・大阪・光の饗宴として連携実施する民間等の団体数 21 団体 (昨年度比 2 団体増)

<p>◆大阪ミュージアム(*7)の推進</p> <p>・大阪ミュージアム登録物を活用して地域魅力を府内外に発信するとともに SNS やホームページ等による認知度を更に向上させる</p> <p>(スケジュール) 元年 11 月 ホームページリニューアル</p>	<p>(数値目標)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・大阪・光の饗宴全体の来場者数 1,750 万人以上 (平成 30 年度 : 1,709 万人)</li><li>・大阪・光の饗宴として連携実施する民間等の団体数を府域を中心にさらに拡大 : 20 団体 (平成 30 年度 : 19 団体)</li></ul> <p>◇活動指標 (アウトプット)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・恒常的なまちの魅力向上支援事業により、地域団体によるまちの魅力向上・景観形成事業に対し、補助を実施</li><li>・ホームページを多言語化するとともに、観光局と連携し SNS を活用した情報発信の強化を図る。</li><li>・多言語冊子「DISCOVER OSAKA」をリニューアルして活用し、大阪の魅力を発信する</li><li>・民間イベントとの連携 (イルミネーションフォトコンテスト、大阪割烹体験など)</li></ul> <p>◇成果指標 (アウトカム)</p> <p>(定性的な目標)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・府内外への大阪の魅力発信、集客・周遊の向上</li></ul> <p>(数値目標)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・参加者満足度 90%以上</li></ul>	<p>&lt;参考&gt; 経済波及効果 約 1,053 億円 (前年比 約 198 億円増)</p> <p>&lt;ナイトカルチャー発掘・創出事業&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○新規 2 事業、継続 2 事業 (補助上限額 500 万円) 補助上限拡大枠 新規 1 事業 (補助上限額 1500 万円) については対して、補助を実施した。</li><li>○劇場誘致に向け他事例収集等を行う調査を実施 (1 月～3 月)</li><li>○地域資源の磨き上げを支援する「恒常的なまちの魅力向上支援事業補助金」の公募を行い (4 月～) 2 団体に対して補助金の交付決定を行った (12 月交付決定)</li><li>○ホームページの多言語化については、4 月～7 月まで対応済 (翻訳サービスの停止により休止) 情報発信については観光局のフェイスブックに冊子「DISCOVER OSAKA」を掲載した。</li><li>○イオンリテール(株)の協力の下、冊子「DISCOVER OSAKA」をリニューアルし、府内のイオン各店舗や観光案内所等での配布を実施 (2 月発行・30,000 部)</li><li>○民間イベントとの連携<ul style="list-style-type: none"><li>・イルミネーションフォトコンテスト (開催日 11 月 4 日～1 月 31 日、応募数 1646 作品)</li><li>・大阪割烹体験 (開催日 2 月 3 日～27 日、参加者数 561 名、参加者満足度 95%)</li><li>・府内で実施された音楽イベントで大阪の地域魅力の PR を実施 (5 月・8 月・9 月)</li></ul></li></ul>
---	---	---

## 文化・スポーツを活かした都市魅力の創出

＜今年度何をするか（取組の内容、手法・スケジュール）＞	＜何をどのような状態にするか（目標）＞	＜進捗状況（R2.3月末時点）＞
<p>■国際的なスポーツイベントの開催</p> <p>◆ラグビーワールドカップ2019(*8)の開催</p> <p>・本年9月開幕のラグビーワールドカップ2019日本大会の会場のひとつ、東大阪市花園ラグビー場で開催される4試合において、共同開催都市である東大阪市や組織委員会と連携し、安全・確実な大会運営を行う</p> <p>また、府域全体で大会を盛り上げ、来阪者をもてなすとともに、積極的に大阪の都市魅力を国内外に発信する</p> <p>〔スケジュール〕</p> <p>元年6月14～16日 優勝トロフィーツアー</p> <p>元年8月3日 テストマッチ（日本対トンガ）</p> <p>・東大阪市花園ラグビー場試合日程</p> <p>元年9月22日 イタリア対ナミビア</p> <p>元年9月28日 アルゼンチン対トンガ</p> <p>元年10月3日 ジョージア対フィジー</p> <p>元年10月13日 アメリカ対トンガ</p> <p>※大会開催期間：元年9月20日～11月2日</p>	<p>◇活動指標（アウトプット）</p> <p>＜大会運営活動＞</p> <p>・試合当日の観客輸送、会場周辺の交通規制、警備などについて、組織委員会などの関係機関と調整のうえ、円滑かつ安全な運営に取り組む</p> <p>＜機運醸成・魅力発信＞</p> <p>〔大会開催前〕</p> <p>・主要ターミナル駅等への広告掲出・装飾、TVメディアなどを通じた大会開催CM、大会100日前告知イベント、テストマッチでのPR、府内キャラバンPRなどを行うとともに、大会の盛り上げに向け大阪の魅力を発信する</p> <p>〔大会開催時〕</p> <p>・大会と開催都市に触れる機会をつくるため、ファンゾーン（花園中央公園野球場・てんしば）運営を中心に大会情報や大阪の魅力を発信する</p> <p>・また、メディア向けの都市情報提供プログラム（PR映像提供、ツアー実施）を展開する</p> <p>◇成果指標（アウトカム）</p> <p>（数値目標）</p> <p>・ラグビーワールドカップ2019花園ラグビー場開催試合関連の観客者・入場者数：約15万人</p>	<p>＜大会運営活動＞</p> <p>・試合当日の観客輸送、会場周辺の交通規制、警備などについて、組織委員会などの関係機関と調整し、円滑かつ安全に運営した。</p> <p>＜機運醸成・魅力発信＞</p> <p>〔大会開催前〕</p> <p>・100日前告知イベントを実施（6月15日）</p> <p>・テストマッチで大会PR等を実施（8月3日）</p> <p>・御堂筋への街灯バナーの設置や主要ターミナル駅等への広告掲出や装飾を実施</p> <p>・大会や府内各地の魅力を発信するCM動画を作成し、TVメディア、映画館（シネアド）、街頭ビジョン、Web等を通して国内外に発信</p> <p>〔大会開催時〕</p> <p>・花園開催試合 観客動員（4試合 約86,000人）</p> <p>・ファンゾーン（花園中央公園野球場・てんしば）を運営。大会情報や大阪の魅力を発信（9日間・来場者約39,000人）</p> <p>・日本代表の初の決勝トーナメント進出を受けパブリックビューイングを追加実施（10月20日）（会場：東大阪市花園ラグビー場・来場者12,000人）</p> <p>・メディア向けの都市情報提供プログラム（ファミトリップ）を実施（参加者6コース・42人）</p> <p>・地域交流事業の実施（3回実施（イタリア、トンガ、ナミビア）・参加者67人）</p> <p>・ラグビーワールドカップ2019花園ラグビー場開催試合関連の観客者・入場者数：約14万人</p>



※数値目標の達成状況について  
 ・試合会場(花園ラグビー場)では、視野制限席を除いた観客席についてチケットを販売しており、公式観客数は、21,000～22,000人と、定員約24,000人には達しなかったが、各開催日もチケット完売であった。  
 また、ファンゾーン(てんしば)については、来場者多数につき雑踏事故防止のため入場規制を行った結果、入場者の入れ替わりがなくなり、当初見込んだ6,000人/日を受け入れることができなかったが、イベントとしては大盛況であった。

数値目標設定時の考え方  
 試合 24,000人×4試合=96,000人  
 ファンゾーン 6,000人×のべ9日=54,000人  
 合計 150,000人

- ホストタウン登録に係る市町村の取組みの支援件数(20件)
- ・登録希望のある市町村への情報提供等(16件)
- ・既登録の市町村支援(4件)  
 ※ホストタウンの登録について(11市、12の国や地域)
- ホストタウンの登録の追加(8件)
- ・新規登録  
 守口市(ガンビア)【第15次登録(8月)】  
 大東市(コロンビア)【第15次登録(8月)】  
 和泉市(セネガル)【第15次登録(8月)】  
 堺市(アルゼンチン)【第18次登録(2月)】
- ・追加登録  
 茨木市(イタリア)【第17次登録(12月)】
- ・共生社会ホストタウンの登録

◆オリンピック・パラリンピックのホストタウン(\*9)登録の推進等(オリンピック聖火リレー)

・東京オリンピック・パラリンピックに向けた機運の醸成や国際交流、府民のスポーツへの関心や大阪の世界的な知名度の向上を図るため、引き続き、ホストタウン(\*10)登録に係る市町村の取組みや、既登録の市町村の具体的な活動を支援する  
 また、東京2020オリンピック聖火リレー(\*10)実施に向けて、ルートの詳細やランナー公募等について東京オリンピック・パラリンピック組織委員会等と協議、調整を進める

(スケジュール)

＜ホストタウン＞  
 通年 登録希望市町村の活動支援(ホストタウン希望国との調整等)  
 既登録の市町村への活動支援(既登録市町村及

◇活動指標(アウトプット)

- ・ホストタウン登録に係る市町村の取組み支援件数:20件
- ・既登録市町村及び全国のホストタウン事業の先進事例の情報提供
- ・オリンピック聖火リレーの府内開催準備

◇成果指標(アウトカム)

- (定性的な目標)
- ・ホストタウン登録の追加

<p>び全国のホストタウン事業の情報提供等)</p> <p>&lt;オリンピック聖火リレー&gt;          元年 6月 組織委員会が通過市町村等(全国)を公表          元年中 ランナー公募実施          2年 4月 14日~15日 府内実施          (3月 26日 福島県からスタート)</p> <p><b>◆ワールドマスターズゲームズ 2021 関西(*11)の開催準備</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大会の認知度向上、機運の醸成を図るとともに、3年5月の開催に向けた準備を府内開催3市(岸和田市、東大阪市、泉南市)等と連携しながら進める</li> </ul> <p>(スケジュール)</p> <p>通年 府関係イベント等でのPR          インターネット等による情報発信</p> <p>元年 5月 2年前イベント          2年 2月 参加者募集開始</p>	<p>◇活動指標 (アウトプット)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・認知度向上及び参加者獲得に向けた府関係イベント等でのPR: 昨年度以上(平成30年度: 62回)</li> <li>・2年前イベント(組織委員会・府・政令市・競技開催市と連携した協働イベント)の実施</li> </ul> <p>◇成果指標 (アウトカム) (数値目標)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・府民のワールドマスターズゲームズ 2021 関西の府民認知度: 50%以上(平成30年度: 22.5%)</li> </ul>	<p>池田市(フランス) 【12月】          守口市(ガンビア) 【12月】          大東市(コロンビア) 【12月】</p> <p>○登録11市の情報集約とともに、市町村との情報交換の実施(通年)</p> <p>○オリンピック聖火リレーの府内開催準備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ランナー公募実施(7月~8月)</li> <li>・ランナー内定者及び詳細ルートの公表(12月)</li> <li>・ランナー走行市町の公表(3月)</li> </ul> <p>※組織委員会が延期を決定(3月)</p> <p>○府関係イベント等でのPR 116件</p> <p>○2年前イベントの開催(5月26日)          (場所: グランフロント大阪「うめきた広場」)</p> <p>○ワールドマスターズゲームズ 2021 関西の府民認知度: 35%</p>
<p><b>■スポーツ都市大阪の魅力発信</b></p> <p><b>◆大阪にゆかりのある主なスポーツチーム連携</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大阪にゆかりのある主なスポーツチームと連携して都市魅力の発信につなげるための取組を推進する</li> </ul> <p>(スケジュール)</p> <p>通年 大阪にゆかりのある主なスポーツチームによる連携事業の検討及び実施(各チームのホームゲームで</p>	<p>◇活動指標 (アウトプット)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大阪にゆかりのある主なスポーツチームと連携したイベントの実施: 昨年度以上(平成30年度: 延べ10回)</li> </ul> <p>◇成果指標 (アウトカム) (数値目標)</p>	<p>○オリックス・バファローズ、阪神タイガース、セレッソ大阪、ガンバ大阪、大阪エヴェッサ、堺ブレイザーズ、サントリーサンバーズ、パナソニックパンサーズ、FC大阪、日本生命レッドエルフ、日本ペイントマレッツと連携し、公式戦等において体力測定会やスポーツ体験会等のイベントを実施し、大阪の都市魅力を発信(12回)</p>

<p>のイベントの実施等)</p> <p><b>◆第9回大阪マラソン(*12)の開催</b></p> <p>・御堂筋、中之島、あべのハルカス、大阪城公園等、大阪のランドマークを32,000人のランナーが駆け巡る国内最大級の都市型市民マラソン「第9回大阪マラソン」を開催する</p> <p>(スケジュール)</p> <p>31年4月 ランナー募集開始 元年6月 公式イベント「大阪マラソンシーズントライアル2019 10K&amp;ファンラン」開催 元年11月 大阪マラソンEXPO2019開催 公式イベント「ハッピーモーニングラン」開催</p> <p>元年12月 第9回大阪マラソン開催(新コース)</p>	<p>・大阪にゆかりのある主なスポーツチームと連携したイベントの観客者合計数：昨年度以上(平成30年度：13万人)</p> <p>◇活動指標(アウトプット)</p> <p>・第9回大阪マラソンの開催(令和元年12月1日)</p> <p>◇成果指標(アウトカム)</p> <p>(数値目標)</p> <p>・参加申込者：昨年度以上 (平成30年度：127,757人、うち海外15,005人)</p> <p>・参加ランナー満足度：昨年度並 (平成30年度：国内97.2%、国外98.2%)</p> <p>・沿道観客者数：昨年度並(平成30年度：130万人)</p>	<p>○大阪にゆかりのある主なスポーツチームと連携したイベントの観客者合計数：9万人</p> <p>○第9回大阪マラソンの開催(12月1日)</p> <p>・参加申込者数 131,337人(2.8%増) (うち国外からの申込者数15,082人【過去最高】)</p> <p>・大阪マラソンEXPOや中之島ファンランなど様々なイベントを展開し、元気あふれる大阪を世界に発信</p> <p>・一般参加ランナー満足度 94.7%</p> <p>・国外参加ランナー満足度 97.1%</p> <p>・沿道観客 133万人</p>
<p><b>■オリンピック・パラリンピック等の開催を契機としたレガシーの形成</b></p> <p><b>◆オリンピック・パラリンピアンへの派遣</b></p> <p>・スポーツの素晴らしさや感動を伝えるとともに、スポーツマンシップ等への理解を深め、将来のスポーツ振興、人材養成につなげていくため、これまでの小学校に加えてスポーツイベント等にオリンピック・パラリンピックの出場経験者等を派遣する</p> <p>(スケジュール)</p> <p>31年4月～元年6月 派遣先の募集・決定、オリンピック・パラリンピアンとの調整等 元年7月～ 派遣</p>	<p>◇活動指標(アウトプット)</p> <p>・オリンピック・パラリンピアン等の学校等スポーツイベントへの派遣：10回程度</p> <p>◇成果指標(アウトカム)</p> <p>(数値目標)</p> <p>・運動・スポーツに興味・関心を持った参加者の割合：昨年度並(平成30年度：98%)</p>	<p>○オリンピック・パラリンピアンを小学校や府内のスポーツイベントに派遣 9回(競泳、アーティステックスイミング、バドミントン、ソフトボール、アーチェリー、車いすテニス、パラアーチェリー等)</p> <p>○アンケートを実施した参加者のうち、運動・スポーツに興味・関心を持った割合 78%</p>
<p><b>■大阪の文化・食の魅力発信</b></p> <p><b>◆大阪文化芸術フェスの開催</b></p> <p>・歴史の中で培ってきた大阪が誇る上方伝統芸能をはじめ、多彩で豊かな大阪の文化を核として、都市魅力を創</p>	<p>◇活動指標(アウトプット)</p> <p>・伝統芸能、演劇、音楽等、府内外のコンテンツを一堂に</p>	<p>○9月16日から11月17日までの2ヶ月間、万博記念公園をはじめ、府内各会場で上方伝統芸能やコンサ</p>

<p>造し、広く国内外に発信するとともに、インバウンドを含めた多くの観光客を呼び込むことをめざす</p> <p><b>(スケジュール)</b> 開催期間 元年9月16日～11月17日</p> <p><b>◆食でおもてなし・多言語メニュー作成支援</b> ・飲食店のための多言語メニュー作成支援システム「TASTE OSAKA」の普及を図り、多言語メニュー設置店を増やすとともに、旅行者向けサイトの機能の充実を図ることで、外国人旅行者が安心かつ快適に飲食店を利用できる環境を整える</p> <p><b>(スケジュール)</b> 31年4月～ 利用者登録促進の取組みの実施、広報等による普及啓発</p> <p><b>◆アーツカウンシル(*13)を通じた文化施策の向上</b> ・大阪府市文化振興会議が、29年11月に取りまとめた「大阪アーツカウンシルのあり方について」に基づき、引き続き</p>	<p>集め、府内全域で様々な公演等を集中的に実施する</p> <p><b>◇成果指標 (アウトカム)</b> (定性的な目標) ・大阪の文化を核とした都市魅力を積極的に情報発信することで大阪のプレゼンス、都市格を高め、国内外から多くの人々をひきつける都市をめざす</p> <p><b>◇活動指標 (アウトプット)</b> ・「TASTE OSAKA」の利用者登録促進の取組みの継続実施 ・旅行者向けサイトにおけるハラル対応をはじめとする機能強化</p> <p><b>◇成果指標 (アウトカム)</b> (定性的な目標) ・利用登録店舗の増加を図り、外国人旅行者が安心かつ快適に飲食店を利用できる環境を整える</p> <p>(数値目標) ・府内飲食店のシステム登録数：2,600件 (平成30年度：1,307件)</p> <p><b>◇活動指標 (アウトプット)</b> ・府文化事業の評価：15件 (平成30年度：16件)</p>	<p>ト、演劇、ファッションショー等の多彩なプログラムを実施した。</p> <p>○より多くのインバウンドを呼び込むため、伝統行事である「祭り」をテーマとしたプログラムや、ナイトエンターテインメント等のノンバーバルなプログラムも多数実施した。</p> <p>・主催・共催プログラム 24件、84公演 ・参加プログラム 31件、31公演 (うち2件は台風により中止)</p> <p>・参加者総数 33.9万人 ・経済波及効果額 18.1億円</p> <p>○府内の宿泊施設への広報カードの配布拡大とともに、利用者登録促進のため、飲食店に代わってメニューを作成する取組みを実施中 ・府内飲食店のシステム登録数：2,673件 (3月末時点)</p> <p>○旅行者向けサイトにおいて、ハラル対応等のピクトグラムや検索機能を追加。ラグビーワールドカップ等のイベントと連動した特集ページを掲載(9月)</p> <p>○大阪府市文化振興会議アーツカウンシル部会を12回開催</p>
---	---	--

「評価・審査」を中心としつつ、「調査」や「企画」の取組を強化していく

**(スケジュール)**

評価・審査等を随時実施

アーツカウンシル部会を月1回程度開催

**◆上方演芸資料館「ワッハ上方(\*14)」の運営とリニューアルによる上方演芸の振興**

・上方演芸の歴史や魅力をこれまで以上に広く発信し、伝えていくため、収蔵資料を活用した展示やワークショップの開催等を通じて、府民はもとより、国内外の観光客にも上方演芸に触れ、楽しみ、体験できる施設をめざす

**(スケジュール)**

31年4月 リニューアルオープン

通年 展示、ワークショップの開催

元年10月 展示替え

・府補助事業の評価：34件（平成30年度：33件）  
 ・府文化事業の改善につながる調査の実施  
 ・芸術文化の担い手支援につながる意見交換会等の実施

**◇成果指標（アウトカム）**

（定性的な目標）

・引き続き、事業視察やヒアリング等を積極的に行い、現場のニーズや課題を把握し、可能なものから文化事業の改善に取り組むことにより、大阪の文化力の向上につなげていく

**◇活動指標（アウトプット）**

・収蔵資料を活用した展示の実施回数（年4回以上）  
 ・ワークショップの開催回数（月4回以上）

**◇成果指標（アウトカム）**

（定性的な目標）

・ワッハ上方を活かし、「笑い」をはじめとする上方演芸の魅力を国内外に発信するとともに、上方演芸の文化を守り、継承していく

・府文化事業の評価：15件  
 ・府補助事業の評価：31件  
 （採択事業34件のうち3件が、新型コロナウイルスの影響により、事業未実施）

○文化事業の改善につなげるため、アーツカウンシルにおいて他府県における文化事業の制度や課題等に関する調査を実施し、報告書を取りまとめた。（3月）

○アーツカウンシルにおいて芸術文化活動を行う方々への支援等を目的として、芸術に関わる人々が交流できるシンポジウムを実施した。（1月25日）

○4月に施設をリニューアルし、収蔵資料を活用した展示を実施した。

**【常設展示】**

大阪弁に関連した資料展示

期間：平成31年4月24日～令和2年3月31日

**【企画展示】**

『芸人とファッション』

期間：平成31年4月24日～令和2年1月19日

『芸人さんは多才だ!』

期間：令和2年1月22日～7月26日（予定）

**【館外展示】**

『上方演芸殿堂入り』

期間：2年1月17日～30日

会場：大阪工業大学梅田キャンパス

来場者数：19,152人

○ワークショップの開催 2月16日まで  
 （5月以降毎月第1、第3土日に開催）

◆江之子島文化芸術創造センター「enoco(\*15)」の魅力向上と利用促進

・府の収蔵作品の活用（展示・貸出し）をはじめ、クリエイター等への交流の場の提供や、アートやデザインを活用した地域課題の解決のための支援を行うことで、引き続き文化創造拠点としての館の魅力向上に努める  
 加えて、地下のフリースペースの集客を高めるイベントや教育講座等を年間通じて実施するとともに、貸室の利用料金設定について見直しを行うなど、館の利用促進を図る

（スケジュール）

通年 クリエイター等への交流の場の提供  
 ワークショップ等イベントの実施  
 元年 8月、2年 1月、3月  
 収蔵作品を活用した展覧会の実施  
 元年 9月～11月  
 大阪文化芸術フェスとの連携事業の実施

◇活動指標（アウトプット）

- ・収蔵作品を活用した展覧会の開催：昨年度以上  
 （平成 30 年度：3 回）
- ・大阪文化芸術フェスとの連携事業の実施
- ・地下のフリースペースの集客を高めるイベントの実施：  
 昨年度以上（平成 30 年度：3 回）
- ・教育講座等の実施：昨年度以上  
 （平成 30 年度：23 回）

◇成果指標（アウトカム）

（定性的な目標）  
 ・府の収蔵作品の活用、クリエイターや府民の交流・活動場の提供、アートやデザイン等の手法を活用した課題解決支援等を行うことで、enoco の魅力向上や利用者数の増加を図る

（数値目標）  
 ・年間来館者数：延べ 110,000 人  
 （平成 30 年度：100,082 人）

- ・開催回数：39 回
- ・参加者数：1,472 人
- 新たに、府内演芸プロダクション等 4 者と事業連携協定を締結（9月 25 日）し、共催イベントを開催した。
  - ・開催回数：6 回
  - ・参加者数：235 人
- 収蔵作品を活用した展覧会として、気鋭の作家が選出する府収蔵作品と、自身の作品をコラボレーションさせた「ココロヲウツス」展ほか、「enoco おしゃべり美術館」、「須田剋太」展（※）を計 3 回開催した
  - ・来場者総数：3,600 人（前年度比 16%増）
  - （※）新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、会期中で中止
- 広く子どもたちにも美術鑑賞の機会を提供するため、支援学校を含む府内学校を訪問する「コレクションキャラバン」を計 5 校実施した
- 大阪文化芸術フェスとの連携事業として、「Exploring-共通するものからみつける芸術のかげら」展を参加プログラムとして位置付け実施した
  - ・期間：10 月 1 日～20 日
  - ・来場者数：809 人
- 地下のフリースペースの集客を高めるため、対話型鑑賞サロンやネットワーク構築事業（トークイベント等）を実施（計 8 回）
- 教育講座等として、「続・enoco の学校」や「こどもアート

学科」等、多様な世代や関心に対応して、広く府民が創造的な活動を体験できるプログラムを実施し、延べ 341 人が参加（延べ 33 講座実施）

○年間来館者数：131,829 人

**世界有数の国際都市を目指した受入環境の整備**

<今年度何をするか（取組の内容、手法・スケジュール）>	<何をどのような状態にするか（目標）>	<進捗状況（R2.3月末時点）>
<p><b>■旅行者の利便性向上</b></p> <p><b>◆Osaka Free Wi-Fi の設置促進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>外国人旅行者からのニーズが高い通信環境の整備を促進するため、観光コース等を中心とした地域・エリアにおけるWi-Fi 環境の集中的な整備を支援する</li> <li>新たに、利用が集中する地域・エリアにおける接続環境の改善や災害時における非常用電源装置の設置を支援する</li> </ul> <p>(スケジュール)</p> <p>31 年 4 月～ 公募開始、補助金交付決定、補助金交付</p>  <p><b>◆大阪・梅田駅周辺のサイン整備</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>大阪・梅田駅周辺において、共通ルールに基づくサイン整備を行うことにより、来阪者、特に急増する外国人旅行者の周遊性・利便性向上を図る</li> </ul> <p>(スケジュール)</p> <p>31 年 4 月～ 公募開始、補助金交付決定、補助金交</p>	<p>◇活動指標（アウトプット）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Wi-Fi 拠点の拡大促進のための補助を実施</li> <li>拠点整備に係る 20 事業への補助 (平成 30 年度：18 事業)</li> <li>接続環境改善に係る 30 事業への補助</li> <li>非常用電源装置の設置に係る 10 事業への補助</li> </ul> <p>◇成果指標（アウトカム）</p> <p>(定性的な目標)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>旅行者の受入環境を充実させ、利便性や満足度のさらなる向上を図ることによるリピーター確保や府内全域への集客促進</li> </ul>  <p>◇活動指標（アウトプット）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>サイン整備に係る 4 事業者への補助 (平成 30 年度：3 事業者)</li> </ul> <p>◇成果指標（アウトカム）</p> <p>(定性的な目標)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>主要ルートにおける共通サインの整備（～令和 4 年度）</li> </ul>	<p>○市町村が策定した Osaka Free Wi-Fi 整備計画書に基づいて、Wi-Fi の整備事業を行う事業者に対し、補助金を交付決定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>交付決定件数：16 事業（6 市、16 エリア）</li> </ul> <p>◇事業数としては目標を下回った（20⇒16）ものの、大規模な Wi-Fi 拠点整備（インテックス大阪）に対して補助を実施した。また、「Regular（レギュラー）」と呼ばれる大型の機種については着実に増加しており、通信環境が向上した。</p>  <p>○大阪市、大阪観光局、鉄道事業者、地下街事業者などで構成する「大阪・梅田駅周辺サイン整備検討協議会」において、今後の整備計画を策定した（2 月）</p> <p>○サイン整備を行う事業者に対し、補助金を交付決定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>交付決定件数事業（5 事業者）</li> </ul>

<p>付</p> <p><b>◆観光トイレ整備事業</b>          ・観光地において、デザイン性や機能性が高く、大阪の新たな観光資源となるような観光トイレを、民間からの企画提案に基づいて整備することで、観光客の利便性向上を図るとともに、さらなる観光誘客を促進</p> <p>(スケジュール)          今年度中 トイレ整備、供用開始</p>	<p>◇活動指標 (アウトプット)          ・デザイン性や機能性が高く、観光資源となりうる観光トイレの整備</p> <p>◇成果指標 (アウトカム)          (定性的な目標)          ・旅行者の受入環境を充実させ、利便性や満足度のさらなる向上を図ることによるリピーター確保や府内全域への集客促進</p>	<p>○観光トイレの整備・運営について、民間事業者と協定を締結 (3月)</p> <p>○引き続き、施設自体が観光魅力となるような、高いデザイン性や話題性のあるトイレの整備を進め、令和2年度中の供用開始をめざす。</p>
<p><b>■観光案内機能の強化</b>  <b>◆「トラベルサービスセンター大阪」の運営</b>          ・来阪旅行者の多様化するニーズに応えるため、民間が実施するサービスと連携し、観光案内のみならず旅行時のトラブルにも対応する等、旅行者の利便性向上と安心・安全をワンストップで提供する</p> <p>(スケジュール)          今年度中 JR 新大阪駅にトラベルサービスセンターを開設</p> <p><b>◆案内表示の多言語化の推進</b>          (市町村等観光振興・宿泊施設補助・ストーリー補助</p>	<p>◇活動指標 (アウトプット)          ・「トラベルサービスセンター大阪」の円滑な運営          ・「トラベルサービスセンター新大阪 (仮称)」の開設</p> <p>◇成果指標 (アウトカム)          (定性的な目標)          ・旅行者の受入環境を充実させ、利便性や満足度のさらなる向上を図ることによるリピーター確保や府内全域への集客促進</p> <p>(数値目標)          ・利用者満足度：95%以上 (平成30年度：97%)</p>	<p>○「トラベルサービスセンター大阪」において、旅行者のための総合案内を実施中          ・利用件数 (4月 - 3月) 日本人 226,534件          外国人 246,483件          ・利用人数 (4月 - 3月) 日本人 128,983人          外国人 122,396人</p> <p>○JR 新大阪駅に「トラベルサービスセンター新大阪」を開設 (8月) し、旅行者のための総合案内を実施中          ・利用件数 (8月 - 3月) 日本人 19,513件          外国人 29,903件          ・利用人数 (8月 - 3月) 日本人 11,517人          外国人 15,289人</p> <p>○新型コロナウイルスの影響により、3月実施予定の利用者満足度に関する調査が実施できず</p>



等)

・《市町村等観光振興》

多言語による観光案内板の設置・改修をはじめ、公衆トイレの整備等、市町村及び公的な団体が実施する旅行者の受入環境整備事業を支援する

(スケジュール)

31年 4月 補助要綱改正・公募にかかる周知  
元年 5月～ 公募開始、補助金交付決定、補助金交付

・《宿泊施設補助》

多言語による案内板の設置・改修をはじめ、ホームページの多言語化や Wi-Fi 環境の整備等、宿泊施設が実施する旅行者の受入環境整備事業を支援する

(スケジュール)

31年 4月～ 公募開始、補助金交付決定、補助金交付

・《大阪ストーリープロジェクト事業》

大阪の魅力スポットやそれらを巡るルート等にストーリー性を持たせた地域における観光資源の磨き上げを図るとともに、国内外から注目されるストーリーの創出や情報発信を強化し、観光客誘客の促進、地域の魅力あるまちづくりを促進

(スケジュール)

元年 8月末 補助事業の公募、決定  
2年 3月末 補助事業完了

◇活動指標 (アウトプット)

- ・市町村等における受入環境整備のための補助の実施
- ・30事業への補助 (平成30年度：18事業)

◇成果指標 (アウトカム)

- (定性的な目標)
- ・旅行者の受入環境を充実させ、利便性や満足度のさらなる向上を図ることによるリピーター確保や府内全域への集客促進

◇活動指標 (アウトプット)

- ・宿泊施設における受入環境整備のための補助の実施
- ・30施設に補助 (平成30年度：13施設)

◇成果指標 (アウトカム)

- (定性的な目標)
- ・旅行者の受入環境を充実させ、利便性や満足度のさらなる向上を図ることによるリピーター確保や府内全域への集客促進

◇活動指標 (アウトプット)

- ・地域における観光資源の磨き上げや受入環境の整備等に対し、補助を実施
- ・大阪観光局や民間企業とも連携し、府域の観光コースとしてPR

◇成果指標 (アウトカム)

- (定性的な目標)

《市町村観光振興補助》

- 市町村から事業計画書の提出を受け、補助金を交付決定
  - ・交付決定事業数：12事業 (8市)
- 交付決定事業数が目標を下回った (30⇒12) については、今年度事業を予定していた市町村が、財源不足等を理由に事業実施を見送ったことなどが原因

《宿泊施設補助》

- 交付決定施設数 宿泊施設 18施設
- 交付決定施設数は目標を下回った (30⇒18) もの、施設数、交付額ともに昨年度を上回る実績となり、一定整備は進んでいる

- 1市1団体に対して補助を実施
- 旅行会社と連携した工場夜景ツアーの実施と古墳群を巡る周遊ルートの広報誌への掲載

【令和元年度】

- ・既存ストーリー：補助事業者が掲げる目標数値を達成した事業の割合 集計中
- ・新たに構築したストーリー数：なし

	<p>・国内外からの集客・周遊性の向上を図るとともに、府内全域への誘客を促進</p> <p>(数値目標)</p> <p>・継続して取り組むストーリー：補助事業者が掲げる目標数値を達成した事業の割合 70%以上</p> <p>・新たに構築するストーリー数：2ストーリー以上</p>	
<p><b>■インバウンド（外国人）受入環境の整備</b></p> <p><b>◆外国人相談の機能充実</b></p> <p>・在住外国人が入管法改正等により更に増加が見込まれる中、多文化共生の拠点機関をめざす大阪府国際交流財団（OFIX）において、市町村等と連携し外国人相談機能の拡充を図る</p> <p>(スケジュール)</p> <p>31年4月～ 外国人相談窓口の機能拡充・運営 元年6月 外国人のための1日インフォメーションサービス（大阪市等と合同実施）</p> <p><b>◆外国人の安全・安心の確保</b></p> <p>・《外国人の災害時多言語支援の強化》 災害時に外国人の安心を確保するため、災害時多言語支援を強化する</p> <p>・災害時に外国人旅行者に迅速、的確かつ分かりやすく情報提供するウェブサイト・アプリの開発・運営</p> <p>・災害時に適切な対応ができるよう交通・宿泊事業者等向けの実践的な講座の実施</p> <p>・多言語観光ボランティアの創設により、災害時を含めたボ</p>	<p>◇活動指標（アウトプット）</p> <p>・外国人相談窓口の機能拡充及び周知（9言語→11言語、週2日の夜間及び月2日の日曜日対応）</p> <p>・市町村等と連携した合同相談会の実施（3回）</p> <p>◇成果指標（アウトカム）</p> <p>(定性的な目標)</p> <p>・在住外国人が気軽に生活や就労等に関する相談ができる環境の整備</p> <p>◇活動指標（アウトプット）</p> <p>・交通事業者等と連携し災害時に必要な空港や鉄道等の情報を一元的に提供するウェブサイトの構築、プッシュ通知可能なアプリの開発</p> <p>・ウェブサイト、アプリの利用促進に向けたPR活動の実施</p> <p>・事業者を対象とした実践的な講座の実施（10回）</p> <p>・多言語観光ボランティアの創設（100人）</p>	<p>○OFIX における外国人相談窓口について、夜間や日曜の開設、対応言語増加など機能を拡充し（4月）、生活や就労等の相談のほか、新型コロナウイルス感染症関連の相談に対応した。</p> <p>・年間相談件数 2,204件（うちコロナ関連246件）</p> <p>○大阪市等と合同で外国人1日インフォメーションサービスを2回開催し（6月、2月）、府内市町村等と連携して合同相談会を実施した。</p> <p>・相談会実績 6月和泉、10月池田、1月富田林、2月守口及び枚方（計5回）</p> <p>《外国人の災害時多言語支援の強化》</p> <p>○災害多言語情報ウェブサイト・アプリ「Osaka Safe Travels」の運用を開始し（2月）、広報カードを観光案内所や空港、鉄道駅等に配置するなど外国人旅行者へのPRを実施した</p> <p>○宿泊や交通、観光等の事業者向け災害時多言語対応講座を10回実施した。（6月～2月）</p>

## ボランティア体制の充実・強化

## (スケジュール)

元年（年内） ウェブサイト及びアプリの開発・運営  
 元年 6 月～ 事業者向け災害対応講座の実施  
 元年 8 月 多言語観光ボランティア創設

## ・《外国人旅行者安全確保事業》

来阪外国人旅行者が急増する中、「新・大阪府地震防災アクションプラン（平成 27 年 3 月策定）」に基づき、外国人旅行者の安全確保に向け、情報提供の強化とともに、現場における支援体制の構築を図る

## ◇成果指標（アウトカム）

（定性的な目標）

- ・ウェブサイト及びアプリの運用を開始
- ・災害時に外国人の安全・安心を守るための環境を整備

（数値目標）

- ・災害対応講座の受講者のうち、多言語による事前の備えを行った割合：80%以上
- ・災害時多言語ボランティアの増加：30 人  
（平成 30 年度 230 人→令和元年度 260 人）

## ◇活動指標（アウトプット）

- ・緊急時お役立ち情報ポータルサイト広報カードの配布数を拡大するとともに、新たな配布場所を拡充
- ・市町村や観光関連事業者に対して、「支援フロー」、「ガイドライン」の周知啓発を実施

## ◇成果指標（アウトカム）

（定性的な目標）

- ・災害情報を入手しやすい仕組みづくりと、災害時の円滑な支援体制を構築し、外国人旅行者が安心して旅行できる環境づくりをめざす

- ・受講者のうち多言語による事前の備えを行った割合 96%

- 多言語観光ボランティア制度を創設し（9 月）、ミナミ周辺で活動を実施した。  
・登録者数 118 人

- 府、OFIX、追手門学院大学で災害時多言語ボランティア確保に関する協定を締結する（11 月）など、ボランティア登録の促進に取り組んだ。  
・登録者数 256 人

## 《外国人旅行者安全確保事業》

- 緊急時に役立つ情報を掲載したポータルサイトの周知促進のため、広報カードを府内の観光案内所等で配布

- 災害多言語情報ウェブサイト・アプリ「Osaka Safe Travels」の広報カードを 100 万枚作成し、観光案内所や空港、鉄道駅等に配置するなど外国人旅行者への PR を実施した。

- 「ガイドライン」については、事業者団体を通じて、府内の宿泊事業者等へ配布するとともに、「災害時多言語対応講座」の参加者へ配布

- 災害時における外国人旅行者の受入れについて、関係部局や大阪市とともに、宿泊施設等との意見交換を実施

- 台風 10 号（8 月）、19 号（9 月）の際に、大阪

## ◆ウェルカム大阪おもてなし事業

・府民が外国人旅行者と自然に交流を図ることができるよう、平易な英語によるコミュニケーション講座を開催するとともに、府内市町村と連携し、多言語観光ボランティアの養成等を行うプラットフォームを形成する

## (スケジュール)

31年4月 府民向け講座の実施事業者の公募

## ◆適法民泊施設の普及促進に向けた取り組み

<宿泊施設おもてなし環境整備促進事業費補助金、民泊対策事業補助金>

・適法民泊の普及促進のため、特区民泊（\*16）の認定を受けようとする事業者等への支援とあわせて、府内の保健所設置市が実施する民泊対策を支援する

## (スケジュール)

31年4月～ 公募開始、補助金交付決定、補助金交付

## ◇活動指標（アウトプット）

- ・府民を対象とした外国人旅行者に対するおもてなし講座の開催
- ・多言語観光ボランティアの養成等を行うプラットフォームの形成

## ◇成果指標（アウトカム）

（定性的な目標）

- ・大阪全体のおもてなし力の向上によるリピーター確保や府内全域への集客促進

（数値目標）

- ・おもてなし講座の参加者のうち、外国人旅行者と英語によるコミュニケーションができるようになったと感じた割合：70%以上

## ◇活動指標（アウトプット）

- ・特区民泊の認定を受けようとする事業者等に対して必要となる設備の整備等に対する補助を実施  
75施設に補助（平成30年度：47施設）
- ・保健所設置市が行う違法民泊対策のための取り組みに対する補助の継続（～令和2年度まで）

観光局や大阪府国際交流財団をはじめ各関係機関と連携し、交通機関の状況等、外国人旅行者に対する各種情報を発信

## 《ウェルカム大阪おもてなし事業》

- 受託事業者を決定（5月）し、府民向けの英語によるコミュニケーション講座を開催（9月～）
  - ・参加者数 1,558人
- ◇外国人旅行者と英語によるコミュニケーションができるようになったと感じた割合 95.1%以上

- 「大阪府観光ボランティア」を登録・養成し、なんば周辺において、週末に活動（9月～）
  - ・ボランティア登録数 11言語・114人
  - ・ボランティア利用者数（9～3月） 16,122人

- 「大阪府観光ボランティア」向けの対応力向上研修や災害時対応研修、市町村における観光ボランティア活動の充実を目的とした研修を実施

## 《宿泊施設補助》

- 交付決定施設数 50施設  
交付決定施設数は目標を下回った（75⇒50）ものの、施設数、交付額ともに昨年度を上回る実績となり、宿泊施設における受入環境の向上が図られた。

## 《民泊対策》

- 「大阪府民泊対策推進事業費補助金」を、大阪市に対して交付（4月）

- 違法民泊の適法民泊への誘導のため、「大阪市民泊

			適正化連絡会議」に参画（5月、9月）
大阪の国際化の推進			
<今年度何をするか（取組の内容、手法・スケジュール等）>	<何をどのような状態にするか（目標）>	<進捗状況（R2.3月末時点）>	
<p><b>■外国人留学生の受入れと定着支援</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>大学や経済団体等と連携し、留学生の受入れを促進するとともに就職支援を実施し、優れた外国人材の大阪定着を図る</li> </ul> <p>(スケジュール)</p> <p>元年 5月～ 就職セミナーの実施 元年 10月～ 就職対策講座・企業見学会の実施</p>	<p>◇活動指標（アウトプット）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>大学等と連携し大阪への留学生の受入れを促進する</li> <li>外国人留学生向け就職セミナーの実施（3回）</li> <li>就職対策講座及び企業見学会の実施（4回）</li> </ul> <p>◇成果指標（アウトカム） (定性的な目標)</p> <p>▷ 外国人留学生等優れた人材の受入れを拡大</p> <p>(数値目標)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>府内外国人留学生数：27,000人 (平成30年度24,751人)</li> <li>府内企業に対する理解が深まった者の割合：80%以上</li> <li>府内企業への就職意欲が向上した者の割合：80%以上</li> </ul>	<p>▶</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○大学コンソーシアム大阪を通じて台湾の高等教育機関にPRするなど、大阪への留学生の受入れの促進に取り組んだ。</li> <li>○大学や経済団体と連携し、留学生の就職を支援するため、就職対策講座4回、就職セミナー4回、企業見学会2回を実施した。（5月～12月） <ul style="list-style-type: none"> <li>・府内企業に対する理解が深まった者の割合：92%</li> <li>・府内企業への就職意欲が向上した者の割合：100%</li> </ul> </li> </ul>	
<p><b>■グローバル人材の育成</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>おおさかグローバル塾（*17）により、海外の大学での学位取得をめざす大阪の高校生を支援する</li> <li>グローバル体験プログラム（*18）の参加をきっかけに、外国人に対する英語でのコミュニケーション感覚・能力の必要性に気付かせ、海外に興味を持つ若者の裾野を広げる</li> </ul> <p>(スケジュール)</p> <p>元年5月～2年2月 おおさかグローバル塾の実施</p>	<p>◇成果指標（アウトカム） (定性的な目標)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>世界で通用するグローバル人材の育成</li> <li>グローバルな視野をもった若者の育成</li> </ul> <p>(数値目標)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>おおさかグローバル塾修了者が海外進学レベルの英語力を習得した割合：90%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○高校生を対象に、おおさかグローバル塾を実施し、グローバル人材の育成に取り組んだ。（5月～2月、修了生39名） <ul style="list-style-type: none"> <li>・海外進学レベルの英語力を習得した割合 73%</li> </ul> </li> <li>○高校生・中学3年生を対象に、1日のグローバル体験プログラムを実施した。（5月～2月、2,117人参加） <ul style="list-style-type: none"> <li>・英語の習得意欲が高まった割合：94%</li> </ul> </li> </ul>	

<p>5月～7月 前期講座 8月 英国リーズ大学短期留学、英語力測定 9月～翌年2月 後期講座、英語力測定 (IELTS) 2 元年5月～2年2月 グローバル体験プログラムの実施</p>	<p>(平成30年度：45%) ・グローバル体験プログラム参加者のうち 英語の習得意欲が高まった割合：95%以上 (平成30年度：94%) 海外に対する関心が高まった割合：95%以上 (平成30年度：96%)</p>	<p>・海外に対する関心が高まった割合：96%</p>
---	--	-----------------------------

<p><b>■ 外国公館や友好交流先との連携強化による国際交流の促進</b></p> <p>・在関西総領事館等との意見交換等の開催や友好交流先との交流を深めることにより、大阪の魅力を発信し、国際交流機能の強化を図る</p> <p><b>〔スケジュール〕</b> 元年7月～2年1月 高校生の相互派遣 (インドネシア東ジャワ州・ベトナムホーチミン市) 元年秋頃 在関西総領事館との意見交換会 元年10月 文化芸術フェスティバルへの友好交流先からの参加</p>	<p><b>活動指標 (アウトプット)</b> ・在関西総領事館との意見交換会の実施 ・友好交流先との交流事業の実施</p> <p><b>◇ 成果指標 (アウトカム)</b> (定性的な目標) ・在関西総領事館との交流機能の強化 ・友好交流先との友好交流の強化</p>	<p>○ 在関西総領事と知事・大阪市長との意見交換会を開催し、大阪の都市魅力や災害時外国人支援の取組み等のPRを実施した。(1月) ・総領事等 13カ国 21名参加</p> <p>○ 友好交流先との交流事業を実施し、交流を深めた。 ・米国カリフォルニア州議員代表団の受入(4月) ・豪州クイーンズランド州との教員の派遣・受入(7月、1月) ・インドネシア東ジャワ州との高校生の派遣・受入(8月、11月) ・ベトナムホーチミン市への高校生派遣(1月) ・仏ヴァルドワーズ県代表団の受入、友好交流コンサートの開催(10月) ・中国上海市友好交流演奏会の開催(10月)</p>
--	--	---

**ツーリズム EXPO ジャパン 2019 等開催支援事業について**

<今年度何をするか(取組の内容、手法・スケジュール)>	<何をどのような状態にするか(目標)>	<進捗状況(R2.3月末時点)>
<p><b>■ ツーリズム EXPO ジャパン 2019 (*19) を通じた大阪のPR</b></p> <p>・ツーリズム EXPO ジャパン 2019 開催初日に行われるレセプションの実施を支援するとともに、商談会において、海外バ</p>	<p><b>◇ 活動指標 (アウトプット)</b> ・ツーリズム EXPO ジャパン 2019</p>	<p>○ 海外の出展者やメディアに対し、大阪の魅力をPRするため、ツーリズム EXPO ジャパン 2019 開催初日のウェル</p>

<p>イヤーやメディアに対し、府内の観光資源を PR する市町村等の出展を支援</p>	<p>WELCOME RECEPTION における大阪らしさの演出 ・VJTM への市町村等の出展支援</p>	<p>カムレセプションでの大阪らしい演出として、だんじりと河内音頭を実施した。(10月)</p>
<p>(スケジュール) 元年 10 月 24～27 日 ツーリズム EXPO ジャパン 2019 ※同時開催 VISIT JAPAN トラベル&amp;MICE マート(VJTM)</p>	<p>◇成果指標 (アウトカム) (定性的な目標) ・国内外からの観光集客及び府域周遊の一層の促進を図る</p>	<p>来場者数 来場者数 151,099 人 (主催者目標 13 万人) 出展 100 か国・地域、1,475 企業・団体 (再掲)</p> <p>○海外バイヤー向けの商談会である VJTM に出展して PR する市町村等に対し通訳費などを支援した。 ・ 交付決定件数 3 件 (商談 83 件実施)</p>